

(2) 群馬県内出土銅印

本遺跡から銅印が1点出土した。群馬県内で既に発見された古代の銅印は知られているだけでも7点で、本遺跡出土のものは8例目となる。また、本遺跡の出土状況は他例と比べ、所属時期、出土場所が明確であり、この点でこの印章は本遺跡のみならず、平安時代前半の荒砥地域一帯の性格を特色づける遺物である可能性が考えられる。

印章は木内武男氏に鑑定いただき、玉稿を賜った。

「蠟型の印面に直接逆字に彫った蠟型鑄造」による古銅印の一例である。

全体の形状、鈕形など、またとくに印文の素朴なところに却って大和古印としての滋味掬すべきものがある。

なお、印面の方3.0cmは当時の1寸に相当し貞観格の「私印は1寸5分を限りとなす」の條文により私印と認められる。印文は姓名のいずれか1字を意味しているものと考えられる。

群馬県内出土銅印については前沢和之氏に御教示いただき、ここではそれを以下に一覧表とした。

表34 群馬県内出土銅印一覧表

印 文	出 土 場 所	規 模 と 形 状	備 考
『物部私印』	高崎市矢中村東遺跡 ^(注1)	印面3.7cm四方、全高4.2cm 蒼鈕有孔	朱色の付着物残存。 平安時代初期
『池長私印』 山	利根郡利根村大字高戸字小沢 ^(注2)	印面4.0cm四方 蒼鶏頭鈕有孔	鈕が欠損 平安時代
『延別緑印』	藤岡市中栗須	印面4.3cm×4.2cm、 現高2.4cm 弧紐有孔	鈕孔が四角形 平安時代
『雄玉大神』	安中市板鼻町板鼻社廃址 ^(注3)	印面5.2cm四方、全高5.2cm 蒼鈕有孔	平安時代
『朝』	利根郡月夜野町藪田遺跡 ^(注4)	印面2.6cm×2.55cm、 全高3.1cm 蒼鈕有孔	朱色の付着物残存 平安時代
『百』	富岡市字田字恵下原(採集)	印面2.4cm四方、全高2.6cm 蒼鶏頭鈕有孔	平安時代
『酒』	前橋市総社町山王廃寺跡 ^(注5)	印面2.8cm四方、全高3.0cm 蒼鈕有孔、鈕基部に2本の玉縁	平安時代前期

注1. 『矢中遺跡(=矢中村東遺跡)』高崎市教育委員会

注2. 富田 篤・水田 稔『利根村で発見された古代「銅印」』『群馬文化』1984

注3. 木内武男『印章』柏書房 1983

注4. 『藪田遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985

注5. 『山王廃寺跡第5次発掘調査報告書』前橋市教育委員会 1979